※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

<エントリーシート> ※ 事 務 局 記 入 欄 **No.：C-30**	部門 校内研修部門	学校名・氏名 寝屋川市立石津小学校
	活動名 特別の教科道徳への転換 チーム学校の指導と評価の一体化	

課題の設定：

平成 25 年度より「道徳の時間」の学習評価は「授業に対する評価と「児童に対する評価」の２つの評価観点を学習指導案上に示し、前者を指導方法研究に、後者を児童への励ましに活用しながらそれらを統合して授業改善につなげる手法をとってきた。平成 27 年度より本校独自の「道徳ノート」を作成し、現在はそれが基になり寝屋川市全体で活用するが、児童のふりかえりから何をみとるのかが、まだまだ不十分であるためその活用の充実が授業改善と共に本校の課題となっている。

方針・計画：

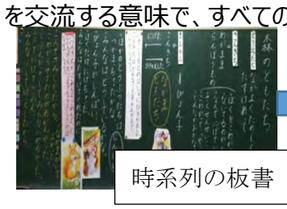
児童が「授業のふりかえり」として記載したノートを分類・分析を実施し、加えて、何をもって個々の児童がねらいとする価値に迫ることができたのかを研究することで、個々の教員の授業改善も進む。その上で、平成 29 年度末にはすべての児童に対して評価を行い、それを学校全体で分析を基に、その根拠を確認し本校がめざす特別の教科 道徳の評価につなげていく。

活動内容：

(1)石津小学校の「道徳科の評価」の在り方とその方法についての指針を示す
(2)学年で児童の「道徳ノート」について①ねらいとする価値に迫ることができたと考えられるもの②ねらいとする価値に対する理解、自覚が不十分なものに分類しその根拠を示した上で、②については担任がコメントによりおって問い返しを行う。さらに、学期ごとに児童に対して自身の学びを振り返らせた上で、①児童が特に考えを深められた授業に対する記述②授業の積み重ねの中で、（同一内容項目）みられた変化や成長に対する記述に対する分類分析 **(3)** (1)・(2)を研究、検証の上で「考え・議論する道徳」の授業改善と授業公開を実施

活動の成果：

授業から児童の学びの姿をみとることは、自身の授業のふりかえりにもつながる。その上で、教職員の板書が時系列でものから、あらかじめ授業のねらいを強く意識するために構造的なものに変化してきている。さらには、それを交流する意味で、すべての授業の板書を写真にとりため、校内掲示をしている。


時系列の板書

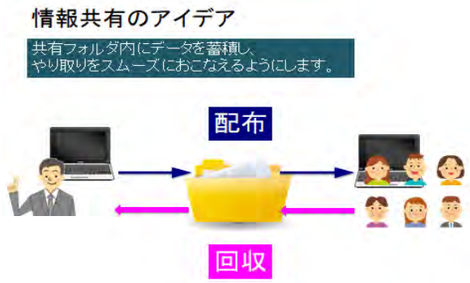
構造的な板書

全学年板書掲示

アピールポイント（アイディアや工夫）：

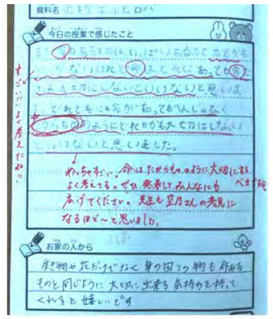
・道徳教育の研究は 10 年目で、研究を支えてきたものは、継続的な教職員の研修であること
・「生」の授業を通して具体的な実践を学ぶものと、道徳科の目標、構造、内容項目について学び、資料(教材)分析や発問構成を論理的に考える理論研修の両輪ですすめていること
・つねに根拠を提示し、感覚によらない研究を行うこと ・ICT を活用して校内での共有をはかり一般化すること
・府内全体、市内全体、中学校区、保護者・地域に開いた授業公開を行うこと

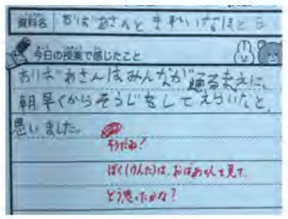
・講師の招聘
・場の設定
・事前事後の計画
・研修内容の拡充
etc…



各年度の地域授業公開研究テーマ

平成26年度	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官（当時）	赤堀博行 氏	教科化に向けた国の動向
平成27年度	元文部科学省初等中等教育局視学官　国學院大学教授	杉田 洋　氏	道徳と特別活動との関連について
平成28年度	道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 副座長　聖央大学教授	島 恒生 氏	「道徳科」の実施に向けて
平成29年度	四天王寺大学　准教授	杉中康平 氏	「道徳科」の評価について
平成30年度	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官	浅見哲也氏	道徳科の質的転換と量的確保

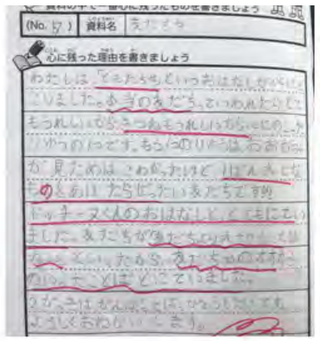

ねらいとする価値に迫ることができたと考えられる例


ねらいとする価値に対する理解、自覚が不十分であり、教師がコメントによって追って問うている例

より考えを深めさせるための手立てとして

児童が自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくために学期ごとに自身の学びを振り返らせる。
このことによって、特に心に残った学習を想起し、児童が今の自分、そして今後の自己の在り方について立ち止まって考える様子も見られる。

1学期全体を通してのふりかえり


複数の資料、内容項目について比較しながら統合的に考える、同一内容項目をねらいとした教材、学習を比較し合うことで、価値の自覚が深まるといった展望も開けつつある。

学期ごとの振り返りの中で、これまでに学習した同内容項目の資料と比較等によって価値の自覚を深めようとしているもの